

勝連: その他の城内の見どころ

沖縄にはあまり多くの河川がないので、「カー」と呼ばれる湧泉は、水の供給源であると同時に生活と信仰において重要な役割を担っていました。勝連城内には5つの神聖な泉があります。その全てが現在でも礼拝に使われています。これらの場所に敬意を払うようにしてください。

ミートウガー

これは「縁結びの泉」として知られています。かつて、水汲みは若い女性にとって外出を許される数少ない機会のひとつだったので、恋人たちはしばしばこの場所で逢引をしました。ただし、カップルを結びつける泉の力は乱用してはいけません。伝説によると、ここで結ばれた恋人たちが分かると不幸になるということです。また、この泉のそばで恋愛の話をしてはいけないとも言われています。

ウタミシガー

これは「占いの泉」として知られています。旧暦の正月元旦の泉の水量によって一年の収穫の多寡が予知できると信じられていました。水が豊富であることは不作を示し、少量であれば豊作が見込まれました。多くの伝統的な信仰と同様、これらの予測には何世代にもわたる経験からの裏付けがあったのかもしれませんが。

仲間ヌウカー

仲間家は、12世紀から15世紀初期にこの地域で武器の製作や修理を行っていた鍛冶屋（カンジャー）でした。この泉は、泉の水を利用して鍛冶仕事をしていた彼らにちなんで名づけられました。しかし、彼らの仕事場あった正確な位置は未だ分かっていません。

門口のガー

この泉の名前は「門の泉」を意味し、地位の低い人々が城を訪れる際に使用していた西原御門の近くにあります。これらの訪問者は、この泉で手足を清めてから城に入りました。村に福を呼ぶ儀式もここで年二回行われました。

マチダ・ナケージガー

沖縄で伝統的に崇められている多くの御嶽とは異なり、この泉については16世紀に琉球王府によって編纂された資料に記述があります。資料からは、少なくとも300年前にはこの泉が高い格と宗教的重要性を持っていたことを示しています。ここでは、今でも年に2回平和への祈りが捧げられています。